

意見聴取先（H29.10.27～H29.11.28）

分野	団体	ヒアリング項目
教育分野	聖ドミニコ学院幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キッズプロジェクトについて</li> <li>・子どもが過ごしやすい美術館についての考え</li> <li>・子どもたちの豊かな感性や創造性，知的好奇心を育む活動を行うために，県美術館に求める機能</li> <li>・学校教育と美術館との連携についての考え</li> </ul>
	まなウェル（総合教育センター）	
子育て分野	NPO法人 冒険・遊び場－せんだい・みやぎネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが過ごしやすい美術館についての考え</li> <li>・キッズプロジェクトについて</li> </ul>
	宮城県PTA連合会	
福祉分野	宮城県障害者福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニバーサルデザインについて</li> <li>・バリアフリーについて</li> <li>・ユニバーサルデザインについて</li> <li>・障害を持った方が過ごしやすい美術館についての考え</li> </ul>
	NPO 法人エイブル・アート・ジャパン東北事務局	
観光分野	仙台観光国際協会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内外の観光客誘致における美術館との連携について</li> <li>・県内で開催される国際会議等の動向について</li> </ul>
国際交流分野	宮城県国際化協会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国の方の美術館利用について</li> <li>・ユニバーサルデザインについて</li> </ul>
震災関連	せんだい 3.11 メモリアル交流館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・震災について各団体が考える今後の情報発信のあり方について</li> </ul>

今後意見聴取予定先

分野	団体名	ヒアリング項目
教育分野	美術館周辺の高等学校等	・学校教育と美術館との連携についての考え
生涯学習分野	宮城県図書館	・美術館との連携についての考え
子育て分野	仙台ビーアイ	・キッズプロジェクトについて
観光分野	宮城県観光連盟	・国内外の観光客誘致における美術館との連携について
国際交流分野	J I C A 東北	・外国の方の美術館利用について ・ユニバーサルデザインについて
震災関連	リアス・アーク美術館	・震災について各団体が考える今後の情報発信のあり方について
その他	仙台市	・県美術館との連携について ・地下鉄駅周辺の案内表示やポスター掲示について ・キッズプロジェクトについて

事項	内容	回答
「キッズ・プロジェクト」について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害をもつ子ども本人が「どうして欲しい」と言える、「ここに来てもいいんだ」、「楽しい」と思えるプログラムがあると良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが主体的に関わることのできるプログラム作りに励みます。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもを対象とする「教育旅行」の班別研修で利用できるプログラムがあると良い。</li> <li>・中学生の修学旅行等で「るーぷる仙台」が利用されることが多いので、美術館との連携を強めたい。</li> <li>・何歳までが対象なのか知りたい。小学生を主なターゲットにすると良いのでは。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現時点で「キッズ・プロジェクト」の対象年齢は定めておらず、広く対象を募りたいと考えております。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが自分の判断で制作できる形にして欲しい。道具を与えるのではなく、自分で必要な道具を選べる、作れるような形が望ましい。</li> <li>・ただの遊び場ではなく美術館にある子どもの遊び場であることを意識してプロジェクトを練って欲しい。</li> <li>・大人と子どもが共存できる、誰が来ても良いという形が望ましい。</li> <li>・子どもに美的な体験をとおしてインパクトを与え、興味を惹くことが重要。色や形など、学校にはない子どもを惹きつける素材を用い、学校ではできない造形活動の経験が得られるようなプログラムがあると良い。</li> <li>・室内だけではなく外の空間で子どもの拠点となる場所があっても良い。子どもが好きな一見無駄に思えるスペースがリニューアル後も残ると良い。</li> <li>・図画工作科の新しい学習指導要領も意識して計画して欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従来より利用者の自主性に重点を置いた教育普及活動を実施して来ており、リニューアル後もその精神は大切にしたいと考えています。</li> <li>・キッズ・プロジェクトでは、子どもに関する取組を通じて、誰もが過ごしやすい美術館作りを目指します。</li> <li>・子どもが様々な素材に触れられる機会の充実を目指します。</li> <li>・美術館の屋外の環境も活用しながら、プログラムを実施します。</li> </ul>

事項	内容	回答
キッズ・プロジェクトについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>• あそび場は子どもが自ら行く場所だが、美術館は大人が連れて行く場所なので、子どもが美術館に来るきっかけを考える必要がある。</li> <li>• 子どもが美術館に来たときに好奇心を刺激され、「何があるんだろう」と思わせる環境作りが必要。ほっとする場所、目的にとらわれずに行きたいと思う場所、行っても良い、居ても良いと思える場所づくりを。</li> <li>• つなぐことに重点を置くと良い。例えばリニューアルの際に、美術館の壁等に何かを複数埋め込み隠す。それを子どもたちが探す。また次に来て、見つけられなかったものを探そうと子どもの中に目標が生まれるようにして、次に繋がる仕掛けを作る。</li> <li>• 子どもは美術館に繰り返し行くと、そこでのルールを覚える。子どもが入りづらい場所があっても良い。（大きくなってから入れば良い。）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 子どもの知的好奇心を刺激するような仕掛けを考え、常に新しい発見が生まれるようなプログラムの構成を目指します。</li> <li>• 子どもが繰り返し足を運びたいくなるような美術館の環境作りを目指します。</li> <li>• 美術館でのルールを子どもに理解してもらうための取り組みは、「キッズ・プロジェクト」のテーマの一つと考えています。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• とても良いアイデア。子どもが「やってもいい」と「やってはいけない」ことは10対0の関係ではない。そのルール感は遊びなどを通して自分の中に生み出すもの。</li> <li>• 子どもに対しては「今は種をまく」というアプローチもある。収穫はまだだが、後でその体験の意味がわかるかもしれない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 美術館でのルールを子どもに理解してもらうための取り組みは、「キッズ・プロジェクト」のテーマの一つと考えています。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 障害をテーマにしたプログラムには大きな可能性がある。障害者だけでなく、障害のない人も集まることで新しいものが生まれる。障害をすべての人が共有することは難しいが、特に子どもの頃からいろんな人がいるということ意識することが大切である。</li> <li>• 聴覚支援学校の生徒に向けた鑑賞プログラムをやって欲しいというニーズはある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「キッズ・プロジェクト」で実施するプログラムを検討する際の参考にさせていただきます。</li> </ul>

事項	内容	回答
<p>キッズ・プロジェクトについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども連れで来館しやすくするためには、子どもを預けてゆっくり観覧できる託児所があると良い。あるいは、逆にキッズ・スタジオのような所は子どもが入口となり、大人の関心を誘うこともできる。</li> <li>・仙台圏外に住む子どもたちについては、移動美術館は積極的に実施してほしい。特に素材体験が良い。</li> <li>・夏休みや冬休みの宿題のヒントになりそうな活動があれば、子どもも行きたがる。</li> <li>・今の子どもはものを作ったり、描いたりする機会が少ない。そのような経験が小さな頃から与えられるようにしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・改修工事による閉館中の取組として、移動美術館等のアウトリーチ事業を検討しています。</li> <li>・子どもの知的好奇心を刺激し、造形活動の楽しさを知るきっかけとなるようなプログラム構成を目指します。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例年、夏休み明け（8月末頃）に園児を連れて来館したいと考えるのだが、予約が取れず、9月になることが多い。キッズ・スタジオが整備されることで、予約の集中が緩和されることを期待したい。</li> <li>・粘土の活動後は体を洗った後にタオルで拭き、着替えをして帰る。タオルは持参するのだが、着替えは廊下で行っているため、着替え用のスペースはほしい。</li> <li>・美術館で子ども向けにどんなプログラムができるのか、何が使えるのかをもっとわかると良い。</li> <li>・幼稚園の畑で育てた芋のつるでリースを作る（園内の）活動は子どもの反応がとても良かった。子ども向けのプログラムについて自分が育てたものとする活動の間に、つながりや循環が見えるのが良いようだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体利用への対応には、活動場所と共にスタッフのスケジュール調整の問題もあるため、適切な人材の確保に努めます。</li> <li>・リニューアルの際に創作室付近に来館者が利用できる更衣室と荷物置き場を設置します。</li> <li>・子どもたちが美術館でできることについては、適切なPRの方法を検討します。</li> </ul>

資料5

事項	内容	回答
ラウンジについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「インスタ映え」は重要で、特にラウンジは写真を撮って拡散してもらうことを意識したい。館のシンボルが見えるなど、一目で宮城県美術館だとわかる場所だと良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラウンジの空間設計の参考にさせていただきます。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書コーナーに、日本の歴史や美術について英語で書かれた本があると良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラウンジにおける図書コーナーの運営の参考にさせていただきます。</li> </ul>
常設展について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮城在住の外国人は、せっかく宮城にいたので、地元の文化に触れたいと考えている。常設展に力を入れることが重要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リニューアルによって常設展の一層の充実化を図ります。</li> </ul>
飲食スペースについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・館内に多目的で自由に飲食できるスペース等があると良い。また、胃ろうの方が食事するときや、喉に器具を入れている方が、痰を吸引できるような一時的にカーテンで仕切れるスペースがあると良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リニューアルの際に新たに飲食スペースを設置します。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お弁当は天気が良ければ屋外で食べるが、雨天時には廊下で食べることになるので、飲食スペースが欲しい。明るい場所であると良い。シート等を敷いて床に座って食べることが多いので、椅子は必要なく、むしろフラットなスペースが良い。</li> </ul>	

事項	内容	回答
バリアフリーについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害を持つ方の中には雨の時に傘がさせない方もいるので、駐車場から入口までの間に庇があると助かる。</li> <li>・車いすの方は、健常者よりも入口を狭く感じる。振動も大きく感じるので、地下鉄等では車いすの方を試乗させて整備したようだ。</li> <li>・知的・発達障害等を持つ方は、急に環境が変わると怖がったり、びっくりして大きな声を上げてしまったりするので、心の準備が必要。展示室に入る前に展示会の映像が見られたり、展示会のモチーフや簡単な解説など次に行動することの手がかりが見られたりすると良い。</li> <li>・展示室の中にちょっとした抜け道のような場所、逃げられる場所があると、ずっと展示物を見ていなくてはならないという緊張が少なくなると思われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リニューアルの際には、高齢者や障害を持つ方が安心して来館できるようバリアフリーに十分留意した設計とします。</li> </ul>
ユニバーサルデザインについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・触っていい作品・いけない作品等について絵や短い言葉で表すサインボード等、一目で見て理解できるサインが館内にあると良い。</li> <li>・音声ガイドはあるが、紙のガイドがない。聴覚障害者から、「展示室内に紙のガイドがあれば良いのに」という意見を聴く。</li> <li>・LGBTの方への配慮として、多目的トイレがあると良い。特に人が多い場所では複数あると良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙のガイドについては、今後の展示の検討の参考にさせていただきます。</li> <li>・また様々な方が快適に過ごせるようユニバーサルデザインについて十分に配慮した設計となるよう努めます。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今の子どもは和式トイレの使用に慣れていない。リニューアルの際には洋式化した方が良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トイレ、化粧室については現代的設備により設置します。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多言語対応の音声ガイドを求める外国人来館者は多いだろう。中国語、韓国語、タイ語のニーズが高いと考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示や案内表示についての検討の参考にさせていただきます。</li> </ul>

事項	内容	回答
ユニバーサルデザインについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・庭やカフェなど、館内には魅力的なスポットがたくさんあるが、存在を知らないまま帰ってしまうことが多い。館内を歩き回って楽しんでもらえるように、外国語表記による案内表示等の工夫をしてほしい。</li> <li>・展示室内の解説パネルはほとんどが日本語表記のみなので、外国語表記もあると良い。音声ガイドでも良い。仙台市博物館では外国語対応の音声ガイドがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本設計の検討の参考にさせていただきます。</li> </ul>
情報発信について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・館のコレクションに世界に誇れる質があるのに、情報発信が十分にされていない。パンフレットでも価値の高さがわかるような説明が必要。例えばニューヨークから学芸員を呼んで「具体」グループについて講演会を行う等、所蔵品のPRを積極的にに行うと良いのでは。</li> <li>・建物の建築についても積極的にプロモーションをするべき。</li> <li>・広報時の写真にバリエーションがほしい。例えばアリスの庭にアリスの衣装を着た子どもがいる写真などは良いのでは。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リニューアルに向けた情報発信に係る検討の参考にさせていただきます。</li> <li>・広報の写真については、バリエーションの充実化を目指します。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・芸術は言語や国籍に関係なく共有できるものなので、多言語表記はすべての情報・すべての言語に対応する必要はないが、ウェブサイト等、美術館に来るまでの情報は重要である。外国語ページは簡略化したもので良いので、イメージが豊富だと良い。</li> <li>・県のアジアプロモーション課で中国人向けHPの開設の動きがある。また、国際企画課では英語でfacebookを開設しているので、展示のお知らせ等の掲載を打診してみても良いのではないか</li> <li>・SNSの利用は国際的に盛んで、「インスタ映え」を意識した方が良い。四季に応じてウェブサイトの写真を切り替えるのも良いのでは。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リニューアルに向けた情報発信に係る検討の参考にさせていただきます。</li> </ul>



事項	内容	回答
ユニークベニューとしての施設・空間の活用について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仙台市は「グローバル MICE 強化都市」のひとつに選定されている。国際会議等で「来た方にインスピレーションをもって帰っていただく」ことを目標にしており、美術館の理念ともマッチするだろう。</li> <li>・講堂の300名収容のキャパシティはユニークベニューとしては小さくない。（200人程度の規模での利用が多い。）美術館にとってユニークベニューとしての利用は本来の設置目的とは異なるが、ぜひ検討してほしい。</li> <li>・ユニークベニューとしての利用では、レセプションパーティーの会場としての用途が最も多い。美術館で利用できそうなのは講堂，エントランスホール，レストラン。外国の方はパーティーなどで中庭に出られると魅力を感じるだろう。北庭もナイトツアー等で使えそうな興味深い空間。飲食物を持ち込むことにハードルがあるが、ユニークベニューとして運用実績のある九州国立博物館ではI P Mの方法論によって害虫駆除等の対応をしている。</li> <li>・ユニークベニューを紹介する立場としては、施設で何が提供できるのかを利用者に明確に示すことができるとありがたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニークベニューとしての施設・空間の活用の検討の参考にさせていただきます。</li> </ul>
開館時間について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より遅い時間まで開館していると使いやすい。</li> <li>・年に一回程度で良いので夏の時期の夜に、閉館後に再度オープンして、美術館を開放してもらえると良い。来館者が普段とは異なる感覚で鑑賞することになり、新鮮な体験になる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リニューアルに向けて、閉館時間の延長についてより検討を深めます。</li> </ul>

事項	内容	回答
被災地の県美術館としての役割について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仙台メディアテークやリアス・アーク美術館 3.11 メモリアル交流館で実施している事業との棲み分けを考え、震災そのものをあえてテーマにしないという立場を貫くという姿勢も長い目で見れば、重要なのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被災地の県美術館としての役割の検討の参考にさせていただきます。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・震災に関する企画には、どんなものにも必ず反対の感情がつきまとう。安易な問いかけは当事者の気に障ることもあり、外から震災を語るのは一筋縄ではない。企画する側が「勝手に結論づけない」ことが重要で、問いかけること、波紋を投げかけることを意識している。県立美術館として宮城県の単位で震災を考えるのならば、県内の各地にアンテナをもつ必要があるだろう。</li> </ul>	